



如来さまと一結

九十八歳女

五月はじめに、あの連休がということがありましたナ。わたしの孫娘が京都のさきの彦根というところからひ孫二人連れて久々に帰つてくると言ふことで、わたしは、ひたすら待つて待つていましたのです。

そのひ孫は、まだ写真でしかわたし会つたことがなかったので、それはそれは楽しんでまつておりましたのやー。

かううちの息子が言うには、「わしら、江州からのお客さんつれて人吉温泉に一泊二日ででかけるで、おばあちゃんは、いつものデーサービスで遊んで来てな」

私は、久しぶりに喧嘩して仕舞いましたので

「連休でみんながそろう時ぐらい、家におらしてーなー。連休やのに……」

ところが息子が言うには、「いや、連休やから、わざわざデーサービスで預かつたろといつてくれるはるのや」

わたしは、空いた口がふさがりませんでした。

「ほんならデーサービスちゅうところは、若い者のために、邪魔な年より預かってくれるところかいな」

しかし、その思いが、喉につまつてとうとうことばには出せませんでした。

とんなに思つて見ても考へてみても、しょうがないことです。

これが年よりと言ふものやと、あきらめてくらすより仕方ありません。そうやつたら、もう何も言つまい思つまいと。

ト君といふのは、幼いとき東京で交通事故にあって、からだもなにも動かない障害を負つてしましました。埼玉かどこかの養護学校で

その日の夕方、送つてもらつて家にかえりました。猫のトラがニヤーと出迎えてくれて、お膳のうえには食事の用意がしてございました。

いつもの通りいざつてお仏壇に「かえりま

した」を申しました。

ここに来て、しみじみわたしお仏壇の如来様が感じられました。

子供・孫からも邪魔者扱いされ、自分で自

分を手放してしまったようなこの私を、ヨボ

昔から「一人ではないぞ」と抱きかかえ抱き締めていてくださる。

とりわけむこの九州では「念佛禁制」といっ

て如来様を隠して祭らねばならなかつたそ

長いご苦労の間も、如来様は呼んで呼んで呼

び続けておられたんやそうですワ。

こんな親がわたしにはあつたのです。今も

いくださつたのです。

お念佛申したら、私もう晴れ晴れと、何もかもスッキリ。だれ恨むことなく、如来さまと一緒。

「後生の一大事」解決、解決。

今日も親切にしてくださるデーサービスの看護婦さんにたちのあたたかな介護につつまれて、楽しく爽やかな一日一日を送らせていただいております。

次ぎは滋賀県の幼稚園児の佐藤ゆうやちゃんの詩です。

「うれしいおたんじょうび」

おとうさんが
さいしょにうまれて
次ぎに　おかあさん
その次ぎに
ゆうやで、こうき
そして
さいごに
ゆいがうまれたんでしょう
みんな
うまれてきて
よかつたね

「T君はねー。T君はひとりで生きてるんじゃないよ。ぜーんぶおかあちゃんに、なにかも抱っこされて思ってるんね。おかあちゃんだって、T君がいいないと生きていらないの。寝るときも起きているときも、ご飯たべると

きもジユース飲むときもウンチのときも、Tくんはいつもおかあちゃんの抱っこ

なかだよ。

T君といふのは、幼いとき東京で交通事故にあって、からだもなにも動かない障害を負つてしましました。埼玉かどこかの養護学校で

十月のことよみ

一日 本山参拝

三日 福祉まつり準備

四日 出石町恒福社まつり

西宗寺報恩講

五日 西宗寺報恩講

六日 長良小学校疎開兒童来寺

八日 日高町役場

N H K 全国巡回朗読セミナー

九日 出石町役場

十日 専福寺報恩講

十一日 田村ゆきえ氏宅法事

十二日 体育の日

十三日 教区蓮華会(神子上学長祝賀会)

十四日 山田博文氏宅法事

十五日 敬老報恩講打ち合わせ会

十六日 十七日 敬老報恩講打ち合わせ会

十八日 敬老報恩講打ち合わせ会

十九日 善立寺報恩講

二十日 直見専福寺蓮如上人五百回遠忌法要

二十一日 敬老報恩講準備

二十二日 永井五生氏宅法事

二十三日 宮嶋真一氏宅法事

二十四日 生野唯念寺報恩講

二十五日 別修(敬老)報恩講

二十六日 敬老報恩講準備

二十七日 敬老報恩講準備

二十八日 敬老報恩講準備

二十九日 出石町役場

三十日 共同体なのですが、近代になって「我の自覚」

「個人の独立」などといって、一人一人が対立しながら生きて行くようになりました。

それはそれとして人間の進歩、文化の発展

という意味もあつたのでしょうか、「反対に争い対立・戦争の世界を作り出して仕舞つた原

因になつてゐるとも言えないでしようか。

最近わたしが感動したこのふたつのエピソ



おしらせ



前住職

「アノーちょっとテレビのボリューム下げて
もらわせませんか。すみませんが：」
朝のミーティングをしている若い従業員の
一人から声がかかりました。
あわてて私は、テレビのスイッチを切ったの
ですが、一瞬落におとされたようなショック
でした。

すぐそのあと眼科検診のとき

「変ですねー、なんでこんなに眼圧が上が
っているのでしょうか？」
といわれてしまつた程でした。

半日間、このショックを考えていきました。

これはしかし、家のなかでもよくあること
です。家の孫などは、断りもなにも言わず、いき
なり飛んで来て、私のテレビをパチッときつ
てしまします。

「人の寝ている枕元を、携帯ラジオならし
ながらウロウロしないでください！」

耳が遠くなつていて私は、気づかず人に
迷惑かけているのです。抗議を受けて腹を立
てる方が間違っています。人の迷惑にならな
いようなら暮らし方を研究し工夫しなければな
らなかつたと教えられました。

蓮如上人御一代記書き

「目下の人のいうことばにこころを用いずに、
すぐカッと腹を立てて仕舞う。浅ましいこと
です。むしろ、人に言われたようにこころを
「このように、なんとかしてわたしのくらし
を人からなおしてもらえるように、心得なけ
ればなりません」
老人にさとしてください」といいます。

ついでに「聞き書き」のこのすぐ前のこと
ばを読みます。

「マキタ」という弟子に問われます。
法敬という弟子としているかい



平成15年9月2日

法輪会役員のみなさま

出石組御同朋50周年記念結集大会大会責任者(前組長) 内田 宏圓
大会実行委員長(総代会長) 國下 章
事務局責任者(組長) 金谷 翌元
法輪会代表 斎藤 恒夫

法輪会特別懇意のお礼

慈光のもとお念佛相続のこととお慶び申し上げます。

さて このたびの出石組御同朋50周年記念結集大会にあたり、法輪会の方々にたいへんお世話になりました。役員のほとんどが法輪会員であり、お念佛をより多くの方にとご協力いただきました。法輪会20年の歩みは御同朋ここ20年の歩みでもありました。遠研20年の歴史がある意味では出石組御同朋50周年記念結集大会に結実したともいえましょう。あらためてお礼を申し上げます。

さらに、法輪会の基金477,646円を記念法要・記念法話に特別懇意としてご提供いただき、多くのご門徒の方々にご法要にお遇いいただくことができました。ご聴聞いただきました。法輪会のみなさまのありがたいご法施がありました。

親鸞さまが、お念佛をとなえながら願われた社会を「御同朋の社会」と言います。だれもだれもが、お念佛(如来のおよびごえ)のなかの兄弟姉妹として、はげましあいながら感謝しながら、いのち輝いて生きる社会です。

特別懇意は全員聴聞の場に実りました。お念佛の輪のなかで特別懇意は全員伝道の形ともなりました。その慶びをご報告させていただきます。

法輪会員の皆様、お一人おひとりにお札を申さねばなりませんが、各寺法輪会代表の方に、別紙会計決算を報告させていただくことでお許しをいただきます。ほんとうにありがとうございました。

できますれば、各寺ご法座の機をとらえて、代表のかたより法輪会会員のみなさまにお伝えくださいますようお願ひいたします。

皆様の全員聴聞・全員伝道へのご活動を念じましてお礼とさせていただきます。

「それだよ。そのことだ。マキタテというの
が悪いのだよ。独善的に思い込んで仕舞つて、
ひとの忠告など聞こうともしない。やはり自
分の意見をひとなかに申し出して、そして人
から批判を受けなければ、まつとうな生き方
ができる訳はない。ことに信心については、
マキタテではダメだよ。」
仲間同行での、たずね合い・聞き合い・語
り合いのなかにこそ「信心歡喜」があること
を教えてくださっています。

組の連研卒業したと『マキタテ』でいては、
折角の種も無駄になってしまいます。
集まりやすい時期等をくふうして『法輪会』
を続けていくにはありませんか。

先だっての合同役員会での結論もこのよう
であつたことを、ほんとうにうれしく思いま
す。

另刊修参(敬老) 幸辰恩講

十月二十三日(木曜日)

山に映える紅葉、野にすだく虫の声に、秋の深まりを感じるこのごろです。お変わりございませんか。

お問い合わせ下さい。

『仏社仏婦でおつとめしていた、毎月の「みのりを聞く会」に、お
参りできない遠方のお年齢りとも、せめて年に一度でも、共々に、お
みのりに会わせていただきたい』
という願いから始められました。

今年も、仏社仏婦会員こそお待ち申しております。
どうぞお説き合わせ、お参りご参加くださいませ。

送迎バスを運行します。ご利用ください。

佐田・栗尾 4:00 → 正法寺 4:05 → 小谷 4:10 → 出合 4:15 →
→ 市場 4:20 → 天根 4:25

和室 4:50 → 楊見 5:00 → 開口 5:05

上小田 4:30

五時半 開会
【一部】

- ①仏社会長開会の挨拶
- ②おつとめ「正信偈(草稿)」
- ③ご法話

【二部】
⑤仏婦会長歓迎の挨拶
⑥おとき
⑦門徒総代あいさつ
⑧慈親演芸会 (閉会 九時予定)

「種を蒔いて、そのあと、手をささないこ
とです」

勝林寺法輪会世話人
南 加寿子
が取り次ぎご披露いたします

